

沖縄現地学習会レポート

無知であることが一番の敵

書記次長 横山貴安基

2021年6月4日～6日、3日間の行程で、南大阪平和人権会議の取り組みによる沖縄現地学習会に参加しました。

5月25日に結団式を行い、今年は10名の団が結成されました。

全国各地で新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発出される地域も多い中、沖縄県も状況下ではありましたが、マスクや手洗いの徹底、毎朝抗原キットによる検査を実施した中で取り組みました。

辺野古へのダンプの車列

那覇空港到着後、車で名護市へ移動し、辺野古基地建設ゲート前に行きました。5年前に訪れたときは多くの人が座り込み、互いに励ましあいながら抗議している光景を見ていましたが、現在緊急事態宣言発出中ということでその光景とは打って変わって閑散としていた状態でショックを受けました。それでも数人での監視活動は継続されています。道中でも目に付いたのが、土砂を乗せたダンプがひっきりなしに走り回り、信号待ちでは50台以上ものダンプが列をなしている光景を目の当たりました。多くの民間警備員の群れ、海上では多くの工事船や監視船、サルベージ船が目につき、異様な光景を見て、5年前の海と様相が一転していて驚きと共にショックを隠し切れませんでした。

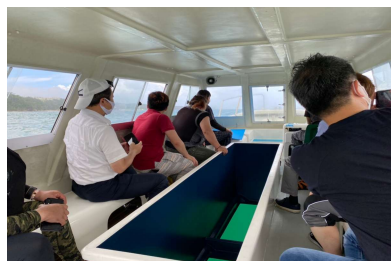
現在、本土では辺野古基地建設の報道も皆無で、人々の関心も薄れているように感じます。工事の進捗具合はともかく、国はこのコロナ禍に乗じた形でこれ見よがしと言わんばかりに着々と工事を進めています。沖縄県民はもちろんのこと、日本国民のすべてが望ん

でもいないことに巨額の税金が湯水のごとくつぎ込まれることに何の意味があるのか、大きな怒りを感じます。

丁間漁港からグラスボートでの海上視察を行いました。船底から見えるガラス越しには大きく美しいサンゴや小魚の群れも見ることが出来ましたが、話を聞くとジュゴンが目撃されることはなくなったということでした。フロートの内側から常にこちらを迫りかける形で巡視艇が監視し、フロートに近づけばハンドマイクで警告を続けるといったことの繰り返しで、無意味なことに呆れてしまいます。

基地建設は最悪の自然破壊

2日目、現地ガイド大畑さんの付き添いの元、本部港に向かう途中土砂搬出港の視察をしました。土砂を積んだ多くのダンプから大きなベルトコンベアによって船に積み込まれるシーンを目の前で見ました。周りの山肌は削られ、山がなくなっているという現状です。



謝花悦子さんの話

本部港から1945年に戦場となった伊江島へ渡り視察をしました。

畑ではタバコの葉が多く栽培されて、また牛を多く育てるのを産業とされています。しかし、島の多くが軍用地ということもあり、移動中ほとんど島民に出会うこともなく、基地の中にいるような錯覚さえしました。団結道場に立ち寄り、ここは1953年4月3日、米民政府は「土地収用令」を公布して、沖縄全県下で農民の土地を接収しました。土地返還を求める闘いの後継者育成を目的とし、外の壁には米軍へのメッセージや、平和を創った偉人の名前が書かれています。当時たたかっていた先人の色々な思いが詰まっているように感じました。「わびあいの里（ヌチドゥタカラの家）」に立ち寄り、資料館では当時の生活物資等が展示され、全国から支援の声が描かれた旗も多く掲げられていました。「わびあいの里」理事長の謝花悦子さんから当時の話、ま



帰阪後に想うこと

た現在の日本に対して大きな危機を持っていると話され、我々のような世代に思いを受け継ぐとともに、大きな期待をされていました。戦禍を生き延びてきた先人から誰よりも熱い話を聞き、我々も心を動かされるのを感じました。

ひめゆり平和祈念資料館

最終日は沖縄南部の「ひめゆりの塔・資料館」に行きました。ここは看護要員として戦場に動員され亡くなっていった「ひめゆり学徒隊」の慰霊塔です。今年4月に一部リニューアルされており、当時の生々しい映像や写真、資料等を見て、改めて人の命を奪った戦争について考えさせられました。

そして「沖縄平和祈念公園」に立ち寄りました。ここは沖縄戦で死んだ兵士を国籍関係なく慰霊するための施設です。素晴らしい景色ではありますが、どこか張り詰めたものも感じられます。

その後訪れた「嘉数の高台」は、沖縄戦における激戦地のひとつで、日米両軍の戦死者はもちろん、多くの地域住民が戦闘に巻き込まれ犠牲になりました。そこから見える普天間飛行場には20機近くのオスプレイが見えました。沖縄を訪れたことのない人なら、とても日本とは思えない光景でしょう。

平和、それは私たちの責務

執行部 佐久原智彦

祖父との会話

私の祖父は沖縄県出身者で私自身、大阪市大正区で育ちました。私が小学生のころは学校で沖縄の過去を語り部の方から学習する機会がたくさんありました。語り部の方は「おじいちゃんやおばあちゃ

知る権利や報道の自由が阻害されているのも事実です。基地問題だけにかかわらず、日米地位協定の問題解決がない中、過去米兵の犯罪行為によって未来ある世代が潰されるような事件はいくつもありました。

人類の愚かな欲望が引き起こし



た戦争によって多くの人が犠牲になった過去を風化させることなく継承していかなければなりません。その一方で我々の後の世代にこのような思いをさせることなく断ち切らなくてはなりません。沖縄の現状を見れば「戦争は終わっていない」と、誰もが思うことではないでしょうか。新型コロナウイルス感染拡大の影響により日本の多くの産業や人々は疲弊しています。こういう時こそ思いを一つにして乗り越えなければならないと思います。だからこそ我々は声を上げ続け運動の強化をし、組織が人を作るのではなく、人の思いが団結した組織を作るべきではないかと考えます。